

Underground

[アンダーグラウンド]



下水道って、冒険だ。

下水道って、冒険だ。

新しいポップアップショップ、日本初上陸のレストラン。
めまぐるしく変わっていく都市の下、肅々と、脈々と僕らを支えている下水道。
地上を冒険し尽くしたあとは、地下に潜るのもあり？

僕らの住む街、足元はるか下で繰り広げられる大冒険。
いざ出発！

東京都下水道局では、2018年度に、若者向け東京下水道発信プロジェクト「東京地下ラボ」を実施しました。この冊子は、東京下水道の魅力を発信することを目的に、本プロジェクトに参加した大学生が制作したものです。



HISTORY

ライトを握りしめ、いざ…！

Time 9:00 | Area 町屋

旧三河島汚水処分場

隅田川中流に位置する三河島水再生センターには、前身となった「三河島汚水処分場」の唧筒（ポンプ）室が残されている。同施設は日本初の近代的下水処理施設であり、大正11年に運転を開始している。水処理を行う設備は現在も稼働中であり、時代を経てその更新を重ねられたが、下水をくみ上げる唧筒室だけは平成11年に稼働を停止するまで旧態を保持し続けた。ゼツェッション様式で設計された建屋はデザイン的にも価値があるだけでなく、関東大震災時も崩落しなかったほどの堅牢を兼ね備えていたという。平成19年には、阻水扉室・沈砂池などの一連の構造物が近代下水処理場唧筒場施設の構造を知る上で貴重であると評価され、下水処理施設としては初めて国の重要文化財に指定された。



そうちゃ〜！

ヘルメット真面目に被ったの小学生のときの自転車振り（笑）。安心安全を考えて、ってのが普通感覚。だけど僕の頭の中は地下探検ロマンでいっぱいである。



ワッフルみたいだわ

いざ、潜入っ



このワッフル型の扉は緊急時等に下水の流れを止めるためにある。ワッフル型にも理由があって、こうなっていると強度が保たれるらしい。



結構低い天井に変わる。



懐中電灯は冒険の必需品。

タイル敷設時にコンクリート・タイル間に残る空気を抜くためにあけられた4つの孔。当時の職人さんが手作りで穴をあけていた。全部4つ孔のほすなのに、遊び心で1枚だけ5つ孔らしい。見つけれられた人は帰りに室くじでも買おうか、なんつって。



三河島の案内人



お土産に、ポストカード

重要文化財に指定されているだけあってレンガ造りが最高にかっこいい！桜や雪といった日本の四季との相性は言うまでもない。夜のキャンドルライトアップもまた素敵。

見学に来たらあげよう〜

言われなくちゃわからない



僕が歩くこのレンガ道は水再生センターに使った汚泥を固めて作られた。僕だけの秘密みたいでなんか楽しい！



はじめての地・荒川二丁目。都電荒川線はレトロな下町を感じさせる路面電車。今東京に残っている路面電車はこれだけ。駅から旧三河島汚水処分場は徒歩3分目で鼻の先。珍しくて見とれてたら電車は逃しちゃったけど…。

そういえば、

下水道は身近なものにもできる

カルチャと下水道

「ぼくらの七日間戦争 角川映画 THE BEST」



発売日：2019/2/8（金）
価格：Blu-ray ¥2,000（税抜）
発売元・販売元：株式会社 KADOKAWA



中学生と大人の7日間に渡る戦いのお話。自分たちを厳しく取り締まる大人に嫌気がさした男子中学生8人組は、学校をサボり廃工場に引きこもる。彼らの勝利を祝う直前に出てくるのが下水道。ひっそりとした空間と、お祝いの派手な演出との対比がクライマックスを一気に引き立てる。

「胎内都市」白汚零 発売中 ¥2484（定価） 草思社

日本で唯一の「下水道写真家」による全国下水道絵巻。煉瓦造りのものから最新のSF世界のような下水道まで。下水道が持つ美しく幻想的な世界観を余すことなく盛り込んだ作品。



culture to Gesuido

都心に広がる、青い空。



Time
11:00

Area
品川

芝浦水再生センター

芝浦水再生センターは、品川駅から徒歩15分の位置にある施設だ。今でこそ周囲を高層オフィス街に囲まれているものの、稼働を開始した昭和6年頃は何もない埋め立て地だったという。敷地内に建っている「品川シーズンテラス」の地下には、7.6万トンもの雨水が貯められる巨大な貯留池がある。また、下水は外気温に比べて夏は冷たく、冬は暖かいという特性を活かし、下水のもつエネルギーをビル全体の空調にも利用している。これらの最新の技術からは、汚れた水の処理にとどまらない、下水道と都市の未来が感じられるだろう。



何気なく建っているこのオフィスビル。実は下水処理施設が地下に埋まっている。果たしてここで働くサラリーマンの皆さんは、そんなこと知っているのだろうか…?



処理施設にはとにかくパイプがたくさんある。縦横無尽に張り巡らされた直線を見ていると、パルクールがしたくなる。



アースくん(笑)

こちらが下水道局キャラクターのアースくん。

都会の喧噪の中に突如として現れる青い屋根。そこには東京下水道局のマスコットキャラクターのアースくんが描かれている。ここ、芝浦水再生センターは膜ろ過を活用して最先端の下水処理を行っている。アースくんには教えて言及しないが、素晴らしい社会貢献をしていることには間違いないさそうだ。

いい背中だろ?

水環境案内人 TGS

TECH



これがいいよ

河原で釣りをしているおじさんに素揚げしたアユをご馳走に。味付けは塩、これ一択。昔の多摩川では考えられないこととおじさんはいい気分。多摩川は処理水が沢山流れているはずなのに、アユが泳いでる。東京の水処理レベルとおじさんの気前の良さに感謝(笑)。

NATURE

冒険のゴール、あるいは始まり。

Time
14:00 | Area
二子玉川

多摩川

多摩川は川辺に草木が茂り、野鳥が数多く見られる自然が豊かに残された川だ。実はこの川の水の半分が、水再生センターからの処理水で構成されていることを知っていたらどうか。昭和39年東京オリンピックの頃の多摩川には生活排水がそのまま流されており、川は生き物の住めない、汚れた「死の川」になっていたという。しかし昭和46年に建設された南多摩水再生センターをはじめとした下水道の整備によって多摩川は再び、鮎の住める生命溢れる川へと蘇った。自然豊かな多摩川は、下水道技術の賜物だ。



あいつまだかな〜

河原で友人と待ち合わせ。昼下りの河原ってなんでこんなに気持ちいいんだろう。天気がいいから尚更だ。かすかに聞こえる都会の喧騒、川のせせらぎと鳥の鳴き声、いつまでもいれるな、なんて。



川って久しぶり(笑)

俺もそうだわ〜!

水せりりに チャレンジ!!

河原に来たからやっぱり水切り?お互い何年振りにやったんだろうか、結構本気でやってしまった(笑)。こうやって、たまには昔やった懐かしい遊びを思いっきりするのも悪くない。



何回跳ねた?
何回跳ねた?

第2回戦を開始。

今日僕が見てきたもの、まずはこいつに話してみようか。地下に潜ったなんて知ったらびっくりするだろうな。それに、この川もどこから来てるかなって言ったら信じてもらえるだろうか(笑)。今度はこいつも連れて行こう、そうしよう。



鮎といえば、

鮎ラーメン

鮎の出汁を使った黄金色の淡麗スープが特徴。麺も中太のちぢれ麺でスープとの相性抜群!メニューは少ないけど鮎が丸ごと乗ったラーメンはイチオシ!骨も無いのでそのままガブリと食べれる。シメに特製焼きおにぎりはそのままでも美味しいけど、崩して食べると本当に最高!

DATA 東京都世田谷区玉川3-15-12 無休
11:30~14:00(売切終了)(しょうがそばのみ)
18:00~翌1:00(売切終了)(鮎ラーメン)
カウンター席のみの雰囲気ある店内。